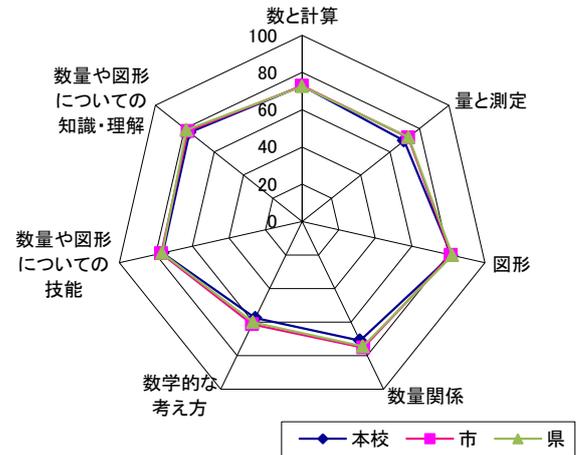


# 宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.8	72.9	72.6
	量と測定	69.5	72.4	72.6
	図形	81.7	81.4	82.1
	数量関係	71.0	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	57.6	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	76.2	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	76.8	77.8	78.8



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○たし算・ひき算、かけ算、わり算の計算問題は、いずれも県平均より2～6ポイント上回っている。</p> <p>○特に、3位数+3位数=4位数、同分母の真分数-真分数=真分数の計算は、正答率がそれぞれ90.1%、92.4%と、よく理解できている。</p> <p>○小数のしくみを問う問題は、正答率が95.3%とよく理解できている。</p> <p>●映画の代金からどの映画を見たかを判断し、理由を説明する記述式の問題では、正答率が32.1%と低く、県平均よりも7.1ポイント下回っている。また、無回答の児童も21%と多い。</p>	<p>・計算問題を解く力は概ね身に付いているが、文章問題になると苦手なところがあり、特に記述式の理由を説明する設問であると、答えを書けない児童が増えてくる。このようなことから、自分が立てた式や書いた図について、その理由を書いたり説明したりする授業を多く取り入れていくことで、書くことに慣れさせていきたい。</p>
量と測定	<p>○時間の分と秒の関係を見る問題は、正答率が94.7%とよく理解できている。</p> <p>●身近にあるものの重さを類推する問題は、正答率が45.8%と低く、県平均よりも3.0ポイント下回っている。</p> <p>●2つの映画の上映時間を比較する問題は、正答率が32.8%と低く、県平均よりも6.9ポイント下回っている。</p>	<p>・量と測定の領域では、身近にある量について学習する。そこで、日常生活で使う時間(日, 分, 秒)や重さ(t, kg, g)、長さ(km, m)の単位の換算などについては、単なる知識ではなく、重さや長さ、時間などをものを実際に持って重さを当てたり、時計なしで1分間を計ったりするなど、体験的な活動を取り入れ、生きてはたらく力として、量感覚が養えるようにしていきたい。</p>
図形	<p>○正三角形の定義を理解しているかを問う問題は、正答率が93.1%とよく理解できている。</p> <p>○二等辺三角形の作図の問題は、正答率が86.3%と概ねできている。</p> <p>●円の直径について理解しているかを問う問題は、正答率が76.3%であるが、県平均よりも4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・正三角形、二等辺三角形、直下三角形、直角二等辺三角形、円、球などの図形を弁別したり作図をしたりする活動を取り入れながら、その定義や特徴を正しく習得できるようにしていきたい。</p>
数量関係	<p>○棒グラフの縦軸の読み取る問題は、正答率が87.0%と、概ね理解できている。</p> <p>●□を使った文章問題の図を選択する問題は、正答率が74.0%であるが、県平均と比べて10.7ポイント下回っている。</p> <p>●□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題は、正答率が43.5%と低く、県平均と比べて9.5ポイント下回っている。</p>	<p>・文章問題で□を使った式で立式する活動を丁寧に取り入れることはもちろん、□を使った式から図を書いたり、図から式を書いたりする算数的な活動を取り入れることで、より着実に習得を図っていきたい。</p>